

令和7年度 福島中学校 シラバス

学年		教科	国語	担当	松本 理香・鈴木 陽子	時数	140
----	--	----	----	----	-------------	----	-----

◆教科の目標

国語の特質を理解し適切に用い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うと共に、言葉がもつ価値を認識し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を育む。

◆評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【主】
趣旨	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようとする。	・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようとする。	・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合うとする態度を養う。

◆年間指導計画

月	領域	単元名 【時間】	学習内容	観点別評価の規準 【知】(知識・理解)「何を理解しているか、何ができるか」 【思】(思考・判断・表現)「理解していること・できることをどう使うか」 【主】(主体的に学習に取り組む態度)「粘り強い取組を行おうとしている」「自らの学習を調整しようとする」態度	評価方法
4月 松本 ・ 鈴木	「学びを開く」	言葉に出会うために 声を届ける 野原はうたう 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう 4時間	1 国語で何を学ぶのかを考える。 ・「言葉に出会うために」を読み、国語を学ぶ意味や言葉の価値を考える。 ◇P14 のイラストなどを参考に、小学校での学習を振り返るとともに、中学校の学習への期待感を高める。 ◇今の考えを書き留めさせ、1年後にこの教材に立ち返ることで自己の変容を感じさせたい。 2 音読・発表のしかたを理解する。 ・教科書を読み、音読・発表のしかたについて理解する。 →二次元コード「発表のしかた」 →P33「言葉! 音声の仕組みや働き」 3「野原はうたう」の二つの詩を音読する。 ・詩に登場する生き物になったつもりで、情景や心情を想像しながら音読する。 ・詩に出てくる語句の意味に注意する。 ◇気に入ったところに印を付けさせたり、線を引かせたりしながら読ませる。 ◇声の強弱や間の取り方を変えたり、声の大きさや高さなど、言葉の調子を工夫したりすることで、作品から受ける印象が変わることに気づかせる。 ◇詩人・工藤直子さんの「野原はうたう」に込めた思いを紹介するとよい。 →二次元コード「作者インタビュー」 4 P18「書き留める」を読み、ノートの書き方の工夫を理解する。 ◇小学校のときのノートの取り方と比較させる。 5 P19「言葉を調べる」を読み、辞典・事典で言葉を調べる方法を理解する。 ・辞典・事典類の種類と特徴を確認し、何を調べるときに役立つかを理解する。 →P274「語彙ブック」(辞典を活用して言葉を広げよう) 6 P20「続けてみよう」を読み、「言葉の手帳」を作る。 ・印象に残った言葉や気になった言葉を、日付や感想とともに書き留めていくことを確認する。 ・最初の言葉を書き込み、その言葉との出会いや意味、使い方などを書いて、友達と交流させる。 ◇線や矢印を使って類義語や対義語を書かせたり、用例を書かせたりしてもよい。 7 学習を振り返る。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →聞き手を意識して声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の大きさや高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。 【主】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。 【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →ノートの書き方の工夫を理解し、線や矢印で情報を整理している。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。 【主】進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
		はじまりの風 5時間	1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 作品の全体像と場面ごとの心情を捉える。 ・登場人物は誰かを確かめる。(課題 I-①) ・物語全体を幾つかの場面に分ける。(課題 I-①) ・場面ごとに、登場人物の心情がわかる表現	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →図などを使って、心情の変化を整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 【主】場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

		<p>を挙げる。(課題 1-②) →P29 カギ「心情の変化をとらえる」 →P276 資『学びのカギ』一覧(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇小学校で学習してきた物語の読み方を思い出させながら進める。</p> <p>3 心情の変化を整理する。(課題 2) ・課題 1 で挙げた表現を基に、場面の展開に沿ってレンの心情の変化を捉え、図などを使って整理する。</p> <p>4 整理した内容を基に話し合う。(課題 3) ・整理した図をグループで見せ合いながら、自分が着目した表現や、そこから読み取れるレンの心情の変化について話し合う。 ・話し合いを通して新しく気づいた点があれば、図に書き足す。 ・文章の中から、「風」に関する言葉を抜き出したり、「風」を表す言葉を自分で集めたりする。 →P29 言の葉 ◇作者のインタビュー動画を見せ、感じたことを発表させてもよい。 →二次元コード「作者インタビュー」</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	る。	
[聞く] 情報を聞き取り、要点を伝える 2時間		<p>1 情報を的確に聞き取り、要点を伝える必要がある場面を挙げる。 ◇自分の体験などを基に、何が必要な情報かを判断しながら聞き取り、情報を整理して伝えることの大切さを理解させる。</p> <p>2 二次元コードの音声を聞き、必要な情報をメモに取る。(やってみよう①) →二次元コード「田村さんと部長の会話」</p> <p>3 ①のメモを基に、相手に伝える内容を整理する。(やってみよう②) ・伝える必要がある情報は、線を引いたり、丸で囲んだりして整理する。</p> <p>4 情報を的確に聞き取るためのポイントを確かめる。 ・「情報を的確に聞き取るために」で、情報を聞き取るときと、聞き取った情報を伝えるときのポイントを確認する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →5WIHに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →日常の話題について、聞き取った情報を整理し、伝える内容を考えている。</p> <p>【主】聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>
言葉Ⅰ 音声の仕組みや働き 3時間		<p>1 導入の課題に取り組み、音声の仕組みや働きについて関心をもつ。 →P16「声を届ける」</p> <p>2 母音と子音について理解する。 ・「母音と子音」を読み、日本語の音声の仕組みや、はっきりと発音する方法を確かめる。 ・「日本語と英語のちがい」を読み、言語によって発音の仕組みに違いがあることを理解する。</p> <p>3 音の高さ・強さについて理解する。 ・アクセントやイントネーションによって、言葉の意味や調子が変わることや、伝えたいことを強調する発音のしかたを理解する。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →日本語の音声が母音と子音で構成されることや、アクセント・イントネーションによって意味や調子が変化することなどを理解している。</p> <p>【主】声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>
話の構成を工夫しよう 一枚の写真をもとにスピーチをする 6時間		<p>1 スピーチの材料を集めめる。 ・「みんなの知らない私の一面」について、思いついたことを書き出す。 ・何を伝えるかを決め、写真を用意する。 →二次元コード「表現テーマ例集」</p> <p>2 話の構成を考え、練習する。 ・聞き手にわかりやすく伝えるために、話す順序や表現のしかたを工夫する。 ◇1 分を目安に内容を整理させる。 ◇構成案を基に、スピーチメモを作らせる。 ・友達どうして聞き合ったり、録画を見たりして、互いの改善点を見つける。 →P35 カギ「わかりやすい話の構成を考える」 →P280 資『学びのカギ』一覧(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 →P341 資「ICT 活用のヒント」 →P37 言の葉 ◇伝えたいことを明確にし、構成や表現を工夫させる。また、声の大きさや速さ、間の取り方などに注意させる。</p> <p>3 スピーチの会を開く。 ・順番を決め、スピーチの会を開く。 ・聞き手の反応を踏まえ、声の大きさや速さ、間の取り方などを意識して話す。</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。</p> <p>【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ) →聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話している。</p> <p>【主】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>

		<p>→二次元コード「スピーチをする」 →P16「声を届ける」 ◇伝えたいことを届けようとする姿勢を大切にさせたい。 →P37「達人からのひと言」 4 学習を振り返る。 ・スピーチについての感想を交流する。 ・内容や話し方について、よいと思ったことを伝え合う。</p>		
	漢字Ⅰ 漢字の組み立てと部首 漢字に親しもう! 2時間	<p>1 導入部分を読み、漢字の組み立てに興味をもつ。 ・漢字は、左右・上下・外側と内側などの二つの部分を組み立てたものが多いことを理解する。 2 偏旁冠脚など漢字を組み立てている部分について理解する。 3 部首について理解する。 4 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 5 P40「漢字に親しもう!」の問題に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308 資「一年生で学習した漢字」 →P321 資「一年生で学習した音訓」</p>	<p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) →漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。 【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>
2 新しい視点で	ダイコンは大きな根? 4時間	<p>1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 文章の中心となる部分を捉える。(課題1) ・筆者が「問い合わせ」を投げかけている段落と、それに対する「答え」を示している段落を見つけ、それぞれ短い言葉でまとめる。 3 段落の役割について考える。(課題2) ・この文章を構成する10の段落が、文章全体の中で、それぞれどんな役割を果たしているかを考える。 →P45 カギ「段落の役割に着目する」 →P278 資「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」 4 筆者の説明のしかたについて話し合う。(課題3) ・筆者の説明のしかたに注目して、この文章のわかりやすさの秘密を話し合う。 ◇題名や説明のしかた(問い合わせ、比較、図など)に着目させるとよい。 5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →本文中で比較がどのように使われているかを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →「問い合わせ」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。 【主】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>
	ちょっと立ち止まって 4時間	<p>1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・P50 の吹き出しを参考に、共感・納得したところや発見・気づき、疑問点等を挙げる。 2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。 ・文章全体を、序論・本論・結論に分け、さらに、本論を三つのまとまりに分ける。(課題1-①) ・結論に書かれている内容に着目して、文章の要旨をまとめる。(課題1-②) →P51 カギ「文章の構成に着目する」 →P278 資「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」 3 文章の構成に着目し、序論・本論・結論の役割を考える。 ・文章と図との対応に注意し、本論の図がそれぞれ何を述べるために示されているかをひと言でまとめる。(課題2-①) ・結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。(課題2-②) 4 考えたことを伝え合う。(課題3) ・筆者の主張を踏まえ、生活の中で、ものの見方や考え方方が広がったと思われる体験や事例を発表する。 ◇最初にもっとった疑問は解決したか、また学習の前には気づかなかった、新たな発見や疑問があれば、友達どうして報告させるとよい。 ・本文から「見る」ことに関する言葉や慣用句を抜き出し、注目の度合いや、見る時間の長さの順に整理する。</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →筆者の主張と事例との関係を整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。 【主】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考え合おうとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>

		→P51 言の葉 5 学習を振り返る。		
6月 松本・鈴木	情報を整理して説明しよう 発見したことをわかりやすく書く 6時間	<p>◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 情報を集め、整理する。 ・取り上げる題材（道具）を選ぶ。 →二次元コード「表現テーマ例集」（「書くことのミニレッスン」内） ・道具を観察したり、試しに使ったりして、気づいたことを書き出し、整理する。 ・説明に必要な情報を絞り込む。 →P55 カギ「情報を集めて取捨選択する」 →P280 資「『学びのカギ』一覧」（書く） →二次元コード「学びの地図」 →P9「思考の地図」 2 構成を考える。 ・選んだ情報をどういう順序で提示するとわかりやすいかを考える。 3 文章にまとめる。 ・P57 の文章の例を参考に、300~400 字程度で文章にまとめ、わかりやすい文章になるように推敲する。 ◇タブレットなどを使って文章を作成すると、推敲しやすい。 →P56 言の葉 →P56「達人からのひと言」 4 交流する。 ・友達と読み合い、内容や説明のしかたについて、わかりやすいと思った点を伝え合う。 5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。</p> <p>【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明に必要な情報を取捨選択している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →わかりやすく説明するために、まとめ方や順序を工夫している。</p> <p>【主】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>
	情報を整理して説明しよう 発見したことをわかりやすく書く 5時間	<p>・文章と図の関連や段落と段落の関係に注意して文章の構成を捉える。 ・筆者の考えを基に、自分のものの見方や考え方を広げる。文脈における語句の意味を的確に捉える。</p>	<p>【知】図を使って説明された文章に興味をもち、文章と図を対応させて読もうとしている。</p> <p>【思】筆者の考えを基に、自分のものの見方や考え方を広げている。文章と図の関連や段落の効果を捉えて、内容を理解している。</p> <p>【主】指示する語句が表す部分を適切に読み取っている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>
3 言葉に立ち止まる	空の詩 三編 [書く]詩の創作教室 4時間（読②書②）	<p>1 三つの詩を音読する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 詩について、感じたことを交流する。 ・「よさやおもしろを感じたところ」や、「どういうことだろうと思ったところ」のような観点で、感じたことや考えたことを交流する。（課題 1-①、②） ◇いずれも空の詩であることを確認させる。 3 詩の情景や表現の効果について話し合う。 ・それぞれの詩について、提示された観点から考えをもつ。（課題 2-①） ・三つの詩の中で、最も印象に残った表現とその効果について、話し合う。（課題 2-②） ◇友達の意見との共通点や相違点を確認させる。 ◇季節や時間（朝・昼・夜）を想像させてもよい。 4 最も印象に残った詩について発表する。（課題 3） ・選んだ詩のいちばんのよさ（おもしろさ）や印象に残った表現などの観点に沿ってメモを作り、発表する。 5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなから、自分の考えか伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言から、創作した詩のよい点や改善点を理解している。</p> <p>【主】詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>
	比喩で広がる言葉の世界 3時間	<p>1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉える。 ・筆者が、「比喩」をどのように定義しているかを確かめる。（課題 1-①） ・筆者が指摘している、比喩の二つの効果を簡潔にまとめる。（課題 1-②） ・文章の中心となる部分を見つけ、要旨をまとめる。（課題 1-③） 3 比喩について理解を深める。（課題 2） ・P74 の図を言葉で説明し、比喩を使うかどうかでどんな違いが出るかを考える。 4 生活への生かし方を考え、伝え合う。（課題 3） ・身の回りにある「比喩」や、「比喩の発想」</p>	<p>【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。</p> <p>【主】進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>

		が生かされた言葉を見つけて発表する。 5 学習を振り返る。		
7 月 松 本	4 情 報 × SD Gs	<p>1 調べるテーマを決める。 ·SDGs の 17 の目標を手がかりに、疑問に思ったことや、詳しく知りたいと感じた問題を書き出す。 →二次元コード「SDGs について考え、行動しよう」 →P282 資「発想を広げる」 →二次元コード「漢字の練習」</p> <p>2 図書館やウェブサイトで情報を集める。 ·P80「図書館で情報を集める」「ウェブサイトで情報を集める」を読み、それぞれの場合での情報の集め方を理解する。 ·自分が決めたテーマについて、どのように調べるのがよいかを考え、実際に情報を集める。</p> <p>3 情報を読み取る。 ·資料から正しく情報を読み取る方法と、必要な情報を記録する方法を理解する。 ·P81 の資料と記録カードの例を参考に、自分が図書館やインターネットで集めた資料から、必要な情報を探してカードに記録する。</p> <p>4 行動宣言をまとめる。 ·読み取った情報を適切に引用しながら、持続可能な社会の実現に向けて、自分がどんな行動をするかをまとめる。 ·出典の示し方に注意して「参考文献」を書く。 ◇資料を引用する際には、P82 の文例と「引用のルール」を参考にせざるとよい。</p> <p>5 著作権について知る。 ·著作権の定義や、著作者の許可が必要ない場合について確認する。 ·P83「やってみよう」に取り組み、著作物を使用するときの留意点を確かめる。</p> <p>6 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ·原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →考えを述べる際に、その考え方を支える理由や事例が必要なことを理解している。 ·比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →本やインターネットで調べた情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方を理解している。</p> <p>【思・判・表】 ·「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 ·「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →読み取った情報を基に、自分の考え方を書いている。</p> <p>【主】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書こうとしている。</p>	<p>【知】 ·定期考査 ·ワークシート</p> <p>【思】 ·定期考査 ·ワークシート</p> <p>【主】 ·ワークシート</p>
	いつも 本は そばに	<p>1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 ·本を読んだ後、記録をしたり、友達に紹介したりする学習活動について理解する。</p> <p>2 「ポップ作り」、「読書会」、「読書記録」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 →P20「続けてみよう」</p> <p>◇学校や地域の状況に応じて、指導者が活動を決めててもよい。</p> <p>3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。 ·ポップの場合は、読書記録を基に本を決め、必要な情報を整理して、本の魅力が伝わるように紹介する。 ·読書会の場合は、クラスやグループごとに課題本を決め、各自で読んで感想などをメモしておく。その後、話し合いたいテーマなどを決めて、読書会を開く。 ·読書記録の場合は、記録のしかたを確認する。</p> <p>4 ポップ、読書会のメモや記録、読書記録を提出する。 ·それぞれの活動で作成したポップやメモ、記録した読書ノートなどを夏休み明けに提出する。 ◇完成物は、教室や学校図書館に展示するといい。 ◇次の教材「本の中の中学生」と併せて指導することも考えられる。 →P86「本の中の中学生」 →P196「研究の現場によこそ」 →P90、202「本の世界を広げよう」</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考え方を広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考え方を広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>【主】読書が、知識や情報を得たり、自分の考え方を広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合うとしている。</p>	<p>【知】 ·定期考査 ·ワークシート</p> <p>【思】 ·定期考査 ·ワークシート</p> <p>【主】 ·ワークシート</p>
9 月 鈴 木 ・ 松 本	4 心 の 動き	<p>1 作品を通読する。 ·注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」</p> <p>2 描写に着目して登場人物の心情を捉える。 ·「母」が食べ物をあまり食べなかつたり、「僕」がヒロユキのミルクを盗み飲みしてしまつたりした理由を確かめる。(課題 1-①) ·提示された部分から「僕」や「母」の心情を考える。(課題 1-②) →P105 カギ「描写に着目する」 →P276 資「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考え方を広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動の理由や心情の変化を捉えている。</p> <p>【主】登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。</p>	<p>【知】 ·定期考査 ·ワークシート</p> <p>【思】 ·定期考査 ·ワークシート</p> <p>【主】 ·ワークシート</p>

	<p>◇提示された部分以外にも、登場人物の心情がわかる描写に線を引かせ、心情を考えさせる。</p> <p>3 題名のもつ意味について考える。(課題 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出典の絵本や、戦争に関する本や資料を併せて読み、作品の時代背景を踏まえて、題名のもつ意味について話し合う。 <p>→P103 広がる読書</p> <p>4 表記に込められた、作者の意図を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」が片仮名表記であることの意味や効果について考える。 <p>→P105 言の葉</p> <p>→二次元コード「作者インタビュー」</p> <p>5 思いを伝える朗読会をする。(課題 3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や登場人物の心情がより伝わるように、心に残った場面を朗読し、感想を伝え合う。 <p>6 学習を振り返る。</p>		
星の花が降るころに 6時間	<p>1 作品を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 <p>→二次元コード「漢字の練習」</p> <p>→二次元コード「銀木犀の写真」</p> <p>2「私」を中心に作品の内容を押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して、作品を幾つかの場面に分ける。(課題 1-①) <p>◇P22「はじまりの風」での場面分けの学習を振り返らせるといい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表などにまとめる。(課題 1-②) <p>3 場面や描写を結び付けて内容を解釈する。(課題 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ物や場所が描かれている場面や描写を、図などを使って整理・比較し、どんなことが読み取れるか伝え合う。 <p>→P115 カギ「結び付けて解釈する」</p> <p>→P276 資「『学びのカギ』一覧」(文学)</p> <p>→二次元コード「学びの地図」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雪が降るよう」のような比喩表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。 <p>→P115 言の葉</p> <p>→P68「言葉3 さまざまな表現技法」</p> <p>4 印象に残った場面や描写を語り合う。(課題 3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解釈を基に、印象に残った箇所とその理由をグループで述べ合う。 <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ)</p> <p>→場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ)</p> <p>→場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。</p> <p>【主】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。</p>	<p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
項目を立てて書こう 案内文を書く 4時間	<p>1 情報を整理し、構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内する事柄を決め、相手の立場に立て、伝える必要がある情報を考える。 ・身の回りの案内文なども参考に、項目を立てて情報を整理し、構成を考える。 <p>→P116 カギ「必要な情報を明確に伝える」</p> <p>→P280 資「『学びのカギ』一覧」(書く)</p> <p>→二次元コード「学びの地図」</p> <p>→P288 資「手紙の書き方」</p> <p>2 案内文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P117「案内文の例(地域の人に)」を参考に、案内文を書く。 <p>◇必要な情報が明確に伝わるように、事柄・目的・相手に合わせて情報を整理し、項目の分類や順序を工夫させる。</p> <p>→P118「読み手の立場に立つ」</p> <p>→P341 資「ICT 活用のヒント」</p> <p>3 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ)</p> <p>→情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →相手が必要とする情報を明確に伝えるために、案内文の構成を考えて書いている。 <p>【主】必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。</p>	<p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
10 月 松 本 ・ 鈴 木	<p>聞き上手になろう 質問で話を引き出す 3時間</p> <p>1 聞き方や質問のしかたを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P123 上段の話を聞く(読んでもよい)。 <p>→二次元コード「質問のしかた」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P123 の「聞き方の工夫」と「質問の種類」を読み、上段の話への質問を考える。 <p>◇「絞る質問」から「広げる質問」の順に展開すると、答えやすくなることが多いことに気づかせる。</p> <p>2 二人一組で対話の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人一組になり、話し手と聞き手に分かれ る。 ・話し手が最近あったことを話す。(30 秒) ・聞き手は、聞き方や質問のしかたを工夫し、質問で話を引き出す。一問一答で終わらな 	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア)</p> <p>→話す速度や声の大きさ、言葉の調子や間の取り方などに注意しながら話している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)</p> <p>→話し手の話に耳を傾け、質問のしかたを工夫しながら対話をし、話を十分に引き出している。</p> <p>【主】進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。</p>	<p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

		<p>いやり取りをめざす。(5分) →P122 カギ「質問で話を引き出す」 →P280 資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 ・役割を交代して繰り返す。 ◇対話の後で、「相づち」「繰り返し」「引用」「言い換え」、「絞る質問」「広げる質問」など、どういった工夫をしたか、交流させるとよい。 3 学習を振り返る。</p>		
5 筋道を立てて	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 6時間	<p>1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇P131 の二次元コードから、シジュウカラの鳴き声を聞かせ、興味づけを図るとよい。 →二次元コード「シジュウカラの鳴き声」 2 文章の構成と内容を捉える。 ・提示された内容がどの段落に述べられているか、考えながら読む。(課題 1-①) ・筆者が、どのような事実を基に仮説を立てたかを簡潔にまとめる。(課題 1-②) ・「仮説・仮定・予想」「検証・証明・裏づけ」の言葉の意味や使い方の違いを考える。 →P137 言の葉 3 文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にして考える。 ・仮説の検証 1・2について、提示された観点で読み取り、表にまとめる。(課題 2-①) ・なぜ「仮説の検証 2」を行う必要があったのかを考える。(課題 2-②) ◇P133 の実験の様子について、動画を見せるよい。 →二次元コード「実験の様子」 ◇仮説 1 の検証結果から、さらに疑問が生まれ、新しい仮説 2 が生まれ、という展開になっていることに気づかせる。 ◇筆者が「事実」をどう「意見」へと展開しているのか、形式段落の冒頭や文末表現に着目させ、読み取らせるよい。 ・この文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にしてまとめる。(課題 2-③) →P137 カギ「構成や展開の効果を考える」 →P278 資「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」 →P138「思考のレッスン」意見と根拠」 4 文章を読んで、考えたことを話し合う。(課題 3) ・筆者の検証方法や結論には説得力があるかどうか、話し合う。 5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →文章の構成や展開の効果について、根拠となる段落や部分を挙げて考えを書いている。 【主】文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>
根拠を明確にして書こう 資料を引用して報告する 6時間		<p>1 課題を決め、調べる。 ・P144~145 の資料などを参考にしながら、課題を決め、情報を集める。 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) →P144「統計資料の例」 →P282 資「発想を広げる」 2 構成を考える。 ・レポートの体裁や引用のしかた、出典の示し方を確かめる。 ・集めた情報を整理し、レポートの項目ごとに、書く内容と順序を考える。 ◇P52「情報整理のレッスン 比較・分類」を再読し、情報の比較・分類のしかた、順序や流れの整理のしかたを確認させるとよい。 ◇「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」や「思考のレッスン」意見と根拠での学びを生かし、根拠となる事実と、意見のつながりを確かめさせるとよい。 →P137 カギ「構成や展開の効果を考える」 3 レポートを書く。 ・タブレットなどを活用し、引用のしかたに注意して、調べたことや考えたことを文章にまとめる。 →P341 資「ICT 活用のヒント」 ・引用のしかたや、根拠の明確さなどについて助言し合い、推敲する。 →P78「情報収集の達人になろう」 →P141 カギ「根拠を明確にして書く」 →P280 資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →集めた資料やデータを根拠として明確に示しながら、自分の考えを書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言をもとに、引用のしかたや根拠の明確さなどについて、よい点や改善点を見いだしている。 【主】根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>

		<p>→P143 言の葉 ◇P144「統計資料の例」にある資料を使ってまとめさせてもよい。 ◇P142 の文例を参考に、レポートの完成イメージをもたせるとよい。 ◇引用のしかたや出典の示し方を確認させる。 →P143「達人からのひと言」 4 レポートを読み合い、交流する。 ・友達とレポートを読み合い、資料を適切に引用できているかなどについて、伝え合う。 ◇タブレットのコメント機能などを使って交流するとよい。 →P341 資「ICT 活用のヒント」 5 学習を振り返る。</p>		
月 鈴 木 いにしえの心にふれる	古典の世界 音読を楽しむ いろは歌 2時間	<p>1 P152「古典の世界」を読み、3年間の古典学習について見通しをもつ。 ・和歌や物語、隨筆、漢文・漢詩など、3年間でさまざまな古典作品に触れるることを知る。 2 P154「いろは歌」を音読する。 ・リズムを味わいながら繰り返し音読する。 →二次元コード「『いろは歌』朗読音声」 ・三段目の現代語訳と関連づけながら読む。 ◇七五調の「今様」であることに触れるのもよい。</p>	<p>【知・技】 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。((3)イ) →小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。 【主】積極的に古文を繰り返して音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>
	蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」 から 6時間	<p>1 古典の文章を音読し、現代の文章との違いを確かめる。 ・古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読する。(課題 1-①) →二次元コード「『竹取物語』朗読音声」 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇小学校の高学年で、「竹取物語」冒頭部分は既に学習していることを踏まえる。 2 現代語訳や P169「古典の言葉」を参考に、現代の文章との違いを確かめる。(課題 1-②) ・仮名遣いが違う部分の読み方を確かめる。 ・文末の言葉の違いを確かめる。 ・現代とは違う意味で使われている言葉や、現代では使われなくなった言葉の意味を確かめる。 →P169「古典の言葉」 3 作品の内容を読み取り、古典の世界を想像する。(課題 2) ・「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の思いや行動について考え、現代の人々に通じるところはないか、友達と語り合う。 ◇P166「貴公子たちの失敗談」は、内容にちなんだ言葉遊びで締めくくられている。現代でも、言葉遊びが社会のさまざまなかところで使われていることに気づかせるとよい(例:商品名など)。 ◇「竹取物語」はさまざまな形で表現されている(P165)。それぞれどのような魅力がより強く伝わるかを考えさせることもできる。 4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読み、登場人物の思いや行動、現代との共通点や相違点について考えを深めている。 【主】進んで古文を音読し、今までの学習を生かして描かれている古典の世界を想像しようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>
	今に生きる言葉 [書く]故事成語を使って体験文を書こう 5時間(読③書②)	<p>1 漢文を、リズムを味わいながら音読する。(課題 1) ・P171「矛盾」の上段を繰り返し音読し、漢文のリズムや、特徴的な言い回しに親しむ。 →二次元コード「『矛盾』朗読音声」 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P174「漢文を読む」 2 本文を読み、故事成語について理解する。 ・「矛盾」という言葉が、どんな故事に由来し、どんな意味で使われるようになったかを説明する。(課題 2-①) ・「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の言葉の意味や、基になった故事を調べる。(課題 2-②) ◇漢和辞典、故事成語辞典、国語便覧等を使用させるとよい。 →P19「言葉を調べる」 3 自分の生活と結び付けて考える。(課題 3) ・自分の体験を思い出し、故事成語を使って短い文章を作る。 →P173「故事成語を使って体験文を書こう」 ◇体験文を友達と読み合い、感想や意見を述べ合う活動も積極的に取り入れたい。</p>	<p>【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解して音読している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →「矛盾」や、「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の基になった故事を調べ、どんな意味で使われるようになったか説明している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →故事成語と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。 【主】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>

		<p>◇体験と故事成語が一致しない生徒がしばしばいる。5W1Hで体験を整理させ、具体的な状況が故事成語と重なるように指導するといい。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>		
11 月 松 本	7 価値を見 いだす	<p>1 本文を通読し、内容を捉える。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →P185 言の葉 →二次元コード「漢字の練習」 ・筆者の「不便益」の定義を確かめる。(課題1-①) ・筆者が「不便のよい面」として、どんな事例を基に、どのような点を挙げているか捉える。(課題1-②) ◇P178「図1②」に、筆者が挙げた事例を書き込ませるなどして、整理させるとよい。</p> <p>2 本文を要約し、筆者の主張について検討する。 ・筆者の主張をつかむために、本文を200字程度で要約する。(課題2-①) →P185 カギ「目的に応じて要約する」 →P278 資『学びのカギ』一覧(説明文) →二次元コード「学びの地図」 ◇キーワードやキーセンテンスを抜き出せるとよい。 ◇まとめの言葉(「つまり」「以上のことから」など)を手がかりとして探す方法を示してもよい。 ◇最初から200字程度にするのではなく、400字から200字に絞り込ませたり、マークで意見と事例に分けさせたりするとよい。 ・要約と事例を基に、提示された点について検討する。(課題2-②)</p> <p>3 筆者の主張に対する自分の意見を書く。(課題3) ・教科書の条件に沿って自分の意見を書く。 ◇タブレットなどを使って文章を書かせてもよい。 ◇筆者の川上浩司さんがどんな思いでこの文章を書いたか紹介してもよい。 →二次元コード「筆者インタビュー」</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の意見を述べるときには、根拠が必要であることを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、本文を要約したり引用したりしながら、自分の考えをまとめている。</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) →目的に沿って必要な情報を結び付け、要約している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見を書いている。</p> <p>【主】必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>
12 月 松 本	8 話題や展開を捉え て話し合おう グループで語り合 い、ものの見方を 広げる 5時間	<p>1 話し合いの目的と話題を確認する。 →二次元コード「表現テーマ例集」 →P282 資「発想を広げる」</p> <p>2 自分の意見をまとめる。 ・自分の意見と、そう考える根拠をノートに書き出す。</p> <p>3 グループで語り合う。 ・録画しながら、話題や展開を捉えて語り合う。 ・付箋を使って整理するなど、話し合いを可視化しながら進める。</p> <p>→二次元コード「グループで話し合う」 →P138「思考のレッスン1 意見と根拠」 →P176「『不便』の価値を見つめ直す」 →P193 カギ「話題や展開を捉えて話し合う」 →P280 資『学びのカギ』一覧(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 →P194 言の葉 →P272「語彙ブック」(思考するときの言葉)</p> <p>4 話し合いを振り返る。 ・録画を視聴して話し合いを振り返り、効果的だと感じた発言などを共有する。 →P341 資「ICT活用のヒント」 ・グループでの話し合いの結果を、代表者がクラス全体に報告する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開に沿って、互いの発言を結び付けながら話したり、自分の考えをまとめたりしている。</p> <p>【主】積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>
1 月 鈴 木	8 自分を見 つめる	<p>1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」</p> <p>◇文章の中での語句の意味に注意させる。</p> <p>2 作品の展開を捉える。(課題1) ・語り手の変更に注意しながら、全体が前半と後半の二つに分かれていることを確認する。 ・時間、場所、出来事に着目しながら、後半を幾つかの場面に分け、それぞれ短くまとめる。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →行動描写や情景描写、心情を表す言葉に着目している。</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考え</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【思】 ・定期考査 ・ワークシート</p> <p>【主】 ・ワークシート</p>

2月松本	<p>3 表現に着目して、「僕」の心情の変化をまとめる。 ・「僕」から見たエーミールの人柄を端的に表している語句や表現を抜き出す。(課題 2-①) ・クジャクヤママユのうわさを聞いてから、それを盗み、壊してしまうまでの「僕」の心情の変化をまとめる。(課題 2-②) ・収集したちようを押し潰してしまった「僕」の行動の意味を考える。(課題 2-③) ◇作品に使われている「熱情」という言葉について考え、読み取りの手立てとするとよい。 →P221 言の葉 4 別の人物の視点から文章を書き換える。 (課題③) ・誰の視点から、どの場面を書き換えるかを決め、作品の展開に沿って書き換える。 →P221 カギ「語り手の視点に着目する」 →P276 資「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇「母」「エーミール」以外にも、「作品前半の語り手」など、幾つかの視点を与えるとよい。 ・書き上げた文章を読み合い、気づいたことを発表し合う。 5 学習を振り返る。</p>	<p>を確かにものにしている。(C(I)オ) →登場人物のものの見方について、自分の考えをもっている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(I)ウ) →読み深めたことを基に、別の人物の視点から出来事や心情を捉え直して、作品を書き換えている。 【主】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。</p>	
二十歳になった日 5時間	<p>1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 随筆の内容を捉える。(課題 1) ・心情を表す語句や表現などに着目し、筆者が「二十歳になった日」に感じたことを挙げる。 3 構成や表現の効果について考える。 ・構成で工夫されていると思う点を話し合う。(課題 2-①) ・筆者の思いや考えが伝わる表現について、「どう書かれているか」に着目して表現の効果を考える。(課題 2-②) →P227 カギ「表現の効果を考える」 →P276 資「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 4 自分が考える表現の効果について語り合う。(課題 3) ・自分が注目した表現とその効果について、考えたことをグループで語り合う。 ◇P228「構成や描写を工夫して書こう」の前段階の学習であることを踏まえて指導するとよい。 5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。((I)ウ) →心情を表す語句や表現に着目し、感じたことを言語化している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(I)エ) →本文中の具体的な記述を挙げながら、構成の工夫や表現の効果について考えている。 【主】進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>
構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く 6時間	<p>1 随筆の題材を選ぶ。 ・随筆に取り上げたい体験を一つ選び、伝えたいことを明確にする。 →P224「二十歳になった日」 →P282 資「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) →P9「思考の地図」 2 材料を書き出し、整理する。 ・取り上げる体験に関する事実や、自分にとっての意味など、随筆の材料を付箋などに書き出し、整理する。 3 構成を考える。 ・書き出した材料を基に、構成を考える。 →P229 カギ「構成を工夫して書く」 →P280 資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 ◇P230「随筆の例」を参考にさせる。導入では「印象的な書きだし」を、体験の説明では「読み手が状況をイメージできる具体的な描写」を意識し、最後に「自分にとっての意味、価値」を書くことを伝え、構成のイメージをもたらせるとよい。 ・自分の伝えたいことが明確に伝わる構成になっているか、友達と助言し合う。 4 随筆を書く。 ・書きだしや結び、描写を工夫して、600~800 字程度で書く。 →P230「達人からのひと言」 →P231 言の葉 ◇タブレットなどを活用し、文章の書きだし部分を共有して、参考にさせ合うとよい。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。((I)ウ) →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(I)イ) →読み手が状況をイメージできるよう、書く内容の中心が伝わるように、構成を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(I)ウ) →体験に基づいて自分の考えを伝えるために、書き出しや結び、描写を工夫している。 【主】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>

		<p>→P341 資「ICT 活用のヒント」 5 隨筆を読み合う。 ・構成や描写で工夫したことや、友達の文章で参考にしたいことなどをまとめる。 6 学習を振り返る。</p>		
	一年間の学びを振り返ろう 要点を資料にまとめ、発表する 5時間(話聞③書②)	<p>1 観点を決め、学習を振り返る。 ・1年間の学習を思い出し、印象に残っていることや興味を引かれたことを挙げ、振り返る観点を決める。 ・教科書やノートなどを読み返し、情報を集める。 →P235 カギ「一年間の学びを振り返る」 →P280 資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く、書く) →二次元コード「学びの地図」 2 情報を整理し、発表内容を決める。 ・集めた情報を分類したり、比較したりして整理し、発表する内容を決める。 ◇カードに書き出し、それらをテーマごとに分類するなどして、発表内容を考えさせるとよい。 →P52「情報整理のレッスン 比較・分類」 →P54「情報を整理して説明しよう」 3 発表用資料を作る。 ・話す内容を決め、構成を考える。 ・スライドやフリップに要点をまとめる。 ◇タブレットなどを活用し、資料を作成してもよい。 →P341 資「ICT 活用のヒント」 →P236 言の葉 4 グループの中で発表する。 ・スライドやフリップを使って発表し(各3分)、質疑応答を行う(各3分)。 ・発表の内容や話し方などについて、感想や意見を伝え合う。 5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすく資料にまとめている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を踏まえて、考えがわかりやすく伝わるように、用いる言葉を工夫して話している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →「観点」に見合った情報を集めて整理し、発表の要点を資料に書いている。 【主】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>
3月松本	ぼくがここに 3時間	<p>1 詩を読み、印象に残った表現を発表する。(課題1) ・詩の中で印象に残った言葉や表現を抜き出し、理由とともに発表する。 ◇平易な言葉で書かれた短い詩であるため、印象に残った表現を挙げられない生徒が多い場合は、あまり時間をかけずに課題2へと授業を展開するとよい。 2 表現の意味や、表現技法について考える。 ・提示された二つの表現がどういうことを表しているかを考える。(課題2-①) ・詩に使われている表現技法や表記・表現のしかたの特徴を挙げて、その効果について話し合う。(課題2-②) →P68「言葉3 さまざまな表現方法」 3 作者の思いについて語り合う。(課題3) ・読み深めたことを基に作者の思いを想像し、考えたことを語り合う。 4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →詩に用いられている表現の技法を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →表現や表現技法に着目して読み深めたことを基に、作者の思いを想像し、考えている。 【主】積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>
	学びを深める	<p>国語の力試し 4時間(読②話聞①書①)</p> <p>1 P263-266 の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 ◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。 →二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから動画を見せ、メモを取らせるほうが望ましい。 →二次元コード「山登りのルートについて」 2 P262 の二次元コードから、発展問題に取り組む。 →二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 3 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 →P45 カギ「段落の役割に着目する」 →P227 カギ「表現の効果を考える」 →P189「進め方について考えよう」</p>	<p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →本文中の「発酵」の説明を適切に抜き出している。 ・「読むこと」において、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →擬人法の表現の効果について、本文に基づいて書いている。 ・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →「山登りのルートについて」の話し合いの展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →案内文で、項目ごとに伝えたいことを整理して明確に書いている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →小学六年生を想定して、わかりやすい表現に書き換えている。 【知・技】 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →比喩の表現技法を理解し、使っている。 ・音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →音読に必要な文語のきまりについて理解している。 【主】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。</p>	<p>【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート</p>

		<p>→P193 カギ「話題や展開を捉えて話し合う」</p> <p>→P118「読み手の立場に立つ」</p> <p>→P116 カギ「必要な情報を明確に伝える」</p> <p>→P169「古典の言葉」</p> <p>→P68「言葉3 さまざまな表現技法」</p>	
--	--	---	--